

2022年度 出版助成図書



『食をることから始めてみよう～生活科・社会科・総合的な学習～』

倉持 祐二 著

喜楽研 (2023年3月1日発行)

A5判/152頁

ISBN 9784862774460

¥1,540 (税込)

<目次>

はじめに

第1章 子どもの食をめぐる今日的な状況

1. 家庭の食事の変化
2. 家庭の食事風景の変化
3. 食事をつくる料理の変化
4. 食べ物に対する関わりの変化
5. 食に対する意識の変化
6. 食のブラックボックス化

第2章 教育課程における「食に関する指導」の検討

1. 教科教育の中での「食に関する指導」の変遷
2. 教科外活動の中での学校給食指導の位置づけ
3. 「食育」の取り組みに求められるもの

第3章 生活科・社会科・総合的な学習における食べ物教材

1. 食べ物を教材にして何を教えてきたのか (学習内容)

2. 食べ物を教材にしてどのように教えてきたのか（学習方法）
3. 食べ物を教材にしてどう授業が変わってきたのか（教育実践の変遷）
4. 食の総合的な学習を構想する

第4章 食べて見つける自分の暮らし

【1年の生活科実践 おうちの人のカレーづくり】

1. 子どもから見た家庭や家族の移り変わり
2. いま、家族をテーマに何を教えるか
3. カレーづくりを通して家族の仕事を教える
4. カレーをつくって食べて知る家族の仕事
5. 「カレーづくり」から「おうちの人のしごと」へ
6. 子どもが見た「家族みんなのための仕事」

【1年の生活科実践 給食のカレーをつくろう】

1. 牛の顔が見たい！
2. じゃがいもでつながる人たち
3. 給食のカレーをつくろう
4. 「食べる」実践の広がり

第5章 食べ調べる地域の生産と労働

【3年の社会科実践 森さんの奈良漬づくり】

1. 「森さんの奈良漬づくり」の魅力を教材化する
2. 「森さんの奈良漬づくり」から子どもたちが見つけたもの
3. 子どもたちが知りたいことを追究する授業に

【4年の総合的な学習の実践 10クラスのおもちをつくろう】

1. きっかけはクラスの父親の言葉から
2. 農業体験の4つの教育的効果を活かす
3. 子どもたちの学びに目標と流れを
4. おいしいおもちが食べたい

第6章 食べて考える現代社会の課題

【5年の社会科実践 米づくり農家34人に聞きました】

1. 「お米調べ」から始まった農業学習
2. 米づくり農家の今
3. 米づくり農家34人に聞きました

【5年の社会科実践 日本の漁業は生き残れるか】

1. 食べ物から現代社会の課題を見つめさせる
2. 漁業はわたしたちの重要な食料産業
3. 漁業の町・那智勝浦に日本の漁業の姿をみる

4. 日本の漁業は生き残れるか？
5. ぼく・わたしたちが考えた「日本の漁業の今とこれから」

第7章 食べて考える日本の歴史

1. きょうのごはん なあに・縄文
2. きょうのごはん なあに・弥生
3. きょうのごはん なあに・奈良
4. きょうのごはん なあに・室町
5. きょうのごはん なあに・江戸
6. きょうのごはん なあに・明治
7. きょうのごはん なあに・大正
8. きょうのごはん なあに・学童疎開
9. きょうのごはん なあに・現代
10. 食べて考える歴史の教育課程をめぐって

おわりに



『文化遺産（ヘリテージ）といかに向き合うのか
—「対話的モデル」から考える持続可能な未来』

平井 健文 他4名（木村 至聖・田中 英資・森嶋 俊行・山本 理佳）訳
ロドニー・ハリソン 著

株式会社ミネルヴァ書房（2023年3月30日発行）

A5判／368頁

ISBN 9784623095476

¥4,950（税込）

<目次>

訳者まえがき

凡例

序文と謝辞

第1章 ヘリテージはいたるところに存在する

- 1 ヘリテージとは何か
- 2 ヘリテージ研究とは何か
- 3 本書の構成

第2章 ヘリテージの理論化——ヘリテージ，モダニティ，物質性

- 1 はじめに
- 2 ヘリテージの定義
- 3 北米，英国，西欧におけるヘリテージ理解の方法を比較する
- 4 ヘリテージとモダニティとの関係
- 5 ヘリテージを理論化する
- 6 結論

第3章 世界遺産前史——概念の登場

- 1 はじめに
- 2 ヘリテージと公共圏の出現
- 3 国家による統制の起源
- 4 世界遺産の起源
——戦後の国際主義、アスワン・ハイ・ダムとUNESCOの保護キャンペーン
- 5 1972年の世界遺産条約
- 6 結論

第4章 後期近代とヘリテージ・ブーム

- 1 はじめに
- 2 20世紀後半とヘリテージ・ブーム
- 3 後期近代
- 4 脱工業化，衰退，そして「ヘリテージ化」の台頭
——ミュージアムからヘリテージ・サイトへ
- 5 過去を経験すること——ヘリテージ，「訪問可能性」，そして経験経済
- 6 ヘリテージとグローバル化——「ブランド」としての世界遺産
- 7 結論

第5章 批判的ヘリテージ研究と言説論的転回

- 1 はじめに
- 2 ヘリテージ，ナショナリズム，伝統の創造
- 3 後期近代におけるヘリテージの拡大に対する学術界からの反応
- 4 過去の翻訳——ヘリテージとインタープリテーション
- 5 ディスティネーション・カルチャー——ヘリテージと観光研究
- 6 ヘリテージ，展示の複雑性と表象のポリティクス
- 7 普遍的価値，ヘリテージを権威化する言説とヘリテージ研究の言説論的転回
- 8 ヘリテージ言説を越えて
- 9 結論

第6章 無形遺産と文化的景観

- 1 はじめに
- 2 世界遺産と普遍的価値
- 3 文化的景観，チュクルパとウルルーカタ・ジュタ国立公園世界遺産
- 4 「代表的な」世界遺産リストのグローバル・ストラテジーに向けて
- 5 無形遺産とマラケシュ，ジャマ・エル・フナ広場のハルカ
- 6 結論

第7章 ヘリテージ、多様性、人権

- 1 はじめに
- 2 トランスナショナルな世界におけるヘリテージと国民形成
- 3 異なった競合する「価値」のマネジメントとしてのヘリテージ
- 4 文化、ヘリテージ、モダニティ、「差異」
- 5 ヘリテージの普遍的価値と文化的多様性への権利
- 6 ヘリテージと差異の関係はいずこへ？
- 7 結論

第8章 ヘリテージと記憶をめぐる「問題」

- 1 はじめに
- 2 過去に溺れる現在？——モダニティの記憶の問題
- 3 不在というヘリテージ——不在を現前させる
- 4 「困難な」そして不協和的なヘリテージ
- 5 過去に圧倒される現在？——不在というヘリテージとその二重性
- 6 想起のための忘却，忘却のための想起
- 7 結論

第9章 対話的ヘリテージと持続可能性

- 1 はじめに
- 2 近代主義者の二元論——「大分水界 (the Great Divide)」
- 3 自然遺産と文化遺産——人工的分離
- 4 先住民の存在論的パースペクティブ主義とヘリテージの対話的モデル
- 5 対話的ヘリテージ，環境倫理と持続可能性
- 6 ミュージアム，対話的ヘリテージと「もの」の倫理的重み
- 7 対話的民主主義——対話的ヘリテージと対話的意思決定プロセス
- 8 結論

第10章 過去のための未来？

訳者あとがき

参考文献

人名索引

事項索引